

サ高住、役割大きく

社会インフラとして、真の需要は40年以降

——4月16日の財政審では、サ高住について「介護保険指定施設との役割分担」や「区分支給限度基準額でなく、特定施設の包括報酬を上限とするような仕組みの見直し」などが議題に上がりました

菊井 少なくとも要介護2以下の人は当てはまらない内容だと思ふ。現在居住している人へ言えば、特定施設の方が高額なケースもあるはずだ。住宅型もサ高住も基本的には独居であり、区分支給限度基準額を越えることもある。その場合は本来10割負担が望ましいが、自治体によって入居者の同意の下、例えば3割負担などで良いとする通知が厚生労働省より出されている。

一方、定期巡回・随時対応型訪問介護看護を併設するサ高住では上限を越えない。例えば訪問介護併設のサ高住で訪問看護を利用すると上限を越えやすくなるが、定期巡回は定額内で訪問看護や福祉用具などを加えられ、これに同一建物減算が加わり、特定施設の包括報酬額よりもやや低い水準になる。

そもそも、サ高住は施設ではなく住宅。賃貸契約による高齢者の住まう権利であり、要介護に限定したサービスではない。自立・要支援の人も多く住むサ高住の区分支給限度基準額を包括報酬型の特定施設と比較し、それよりも低く設定すべきというのは納得できない議論ではない。



菊井 徹也 会長

本番は2040年以降だと考える。団塊の世代が90代になる頃に

木村 外付けサービスという観点でサ高住・住宅型を合わせると、すでに特養の入居者数に程近い60万戸超が供給されている現状。自立の人から要介護度の高い人までが住まう場としての社会インフラだ。ほかの居住系サービスでは事業継続が危ぶまれるほどの報酬改定の議論はなされない中、外付けサービスの部分のみ度指摘される。本人が選択しケアプランを作る外付けの住まうと、包括報酬型の居住系施設がそれぞれ整備されてきた中で、利用者の選択と政策の結果、サ高住が整備されてきたという現状が真実では。

菊井 「囲い込み」の議論が度々なされるが、あくまで利用者の選択によるもの。当然、

「ケアプラン点検」がポイント

菊井 「囲い込み」の議論が度々なされるが、あくまで利用者の選択によるもの。当然、

「囲い込み」議論、齟齬へ訴え

中々、介護予防のリハビリテーションや楽しみ、活動といった分野のニーズに対応しつつ、満額受け取っている事業者がいる。これはデイであり、5割弱に上る。「囲い込み」という言葉が「給付費の使い過ぎ」と同義で使われているが、本質的な問題は適

「囲い込み」議論、齟齬へ訴え

中々、介護予防のリハビリテーションや楽しみ、活動といった分野のニーズに対応しつつ、満額受け取っている事業者がいる。これはデイであり、5割弱に上る。「囲い込み」という言葉が「給付費の使い過ぎ」と同義で使われているが、本質的な問題は適

「囲い込み」議論、齟齬へ訴え

中々、介護予防のリハビリテーションや楽しみ、活動といった分野のニーズに対応しつつ、満額受け取っている事業者がいる。これはデイであり、5割弱に上る。「囲い込み」という言葉が「給付費の使い過ぎ」と同義で使われているが、本質的な問題は適

「囲い込み」議論、齟齬へ訴え

中々、介護予防のリハビリテーションや楽しみ、活動といった分野のニーズに対応しつつ、満額受け取っている事業者がいる。これはデイであり、5割弱に上る。「囲い込み」という言葉が「給付費の使い過ぎ」と同義で使われているが、本質的な問題は適

「囲い込み」議論、齟齬へ訴え

中々、介護予防のリハビリテーションや楽しみ、活動といった分野のニーズに対応しつつ、満額受け取っている事業者がいる。これはデイであり、5割弱に上る。「囲い込み」という言葉が「給付費の使い過ぎ」と同義で使われているが、本質的な問題は適

一般社団法人高齢者住宅協会

対談
高住協
会長 × 副会長

介護経営者向け情報紙
——在宅から施設、周辺産業まで——
週刊 高齢者住宅新聞
Elderly Press Newspaper

2024年
5月22日
第758号 毎週水曜日発行
(株)高齢者住宅新聞社
東京都中央区銀座8-12-15
03-3543-6852 (編集部)
発行人 網谷敏政
年間購読料 23,100円

木村 外付けサービスという観点でサ高住・住宅型を合わせると、すでに特養の入居者数に程近い60万戸超が供給されている現状。自立の人から要介護度の高い人までが住まう場としての社会インフラだ。ほかの居住系サービスでは事業継続が危ぶまれるほどの報酬改定の議論はなされない中、外付けサービスの部分のみ度指摘される。本人が選択しケアプランを作る外付けの住まうと、包括報酬型の居住系施設がそれぞれ整備されてきた中で、利用者の選択と政策の結果、サ高住が整備されてきたという現状が真実では。

木村 外付けサービスという観点でサ高住・住宅型を合わせると、すでに特養の入居者数に程近い60万戸超が供給されている現状。自立の人から要介護度の高い人までが住まう場としての社会インフラだ。ほかの居住系サービスでは事業継続が危ぶまれるほどの報酬改定の議論はなされない中、外付けサービスの部分のみ度指摘される。本人が選択しケアプランを作る外付けの住まうと、包括報酬型の居住系施設がそれぞれ整備されてきた中で、利用者の選択と政策の結果、サ高住が整備されてきたという現状が真実では。

木村 外付けサービスという観点でサ高住・住宅型を合わせると、すでに特養の入居者数に程近い60万戸超が供給されている現状。自立の人から要介護度の高い人までが住まう場としての社会インフラだ。ほかの居住系サービスでは事業継続が危ぶまれるほどの報酬改定の議論はなされない中、外付けサービスの部分のみ度指摘される。本人が選択しケアプランを作る外付けの住まうと、包括報酬型の居住系施設がそれぞれ整備されてきた中で、利用者の選択と政策の結果、サ高住が整備されてきたという現状が真実では。

木村 外付けサービスという観点でサ高住・住宅型を合わせると、すでに特養の入居者数に程近い60万戸超が供給されている現状。自立の人から要介護度の高い人までが住まう場としての社会インフラだ。ほかの居住系サービスでは事業継続が危ぶまれるほどの報酬改定の議論はなされない中、外付けサービスの部分のみ度指摘される。本人が選択しケアプランを作る外付けの住まうと、包括報酬型の居住系施設がそれぞれ整備されてきた中で、利用者の選択と政策の結果、サ高住が整備されてきたという現状が真実では。

木村 外付けサービスという観点でサ高住・住宅型を合わせると、すでに特養の入居者数に程近い60万戸超が供給されている現状。自立の人から要介護度の高い人までが住まう場としての社会インフラだ。ほかの居住系サービスでは事業継続が危ぶまれるほどの報酬改定の議論はなされない中、外付けサービスの部分のみ度指摘される。本人が選択しケアプランを作る外付けの住まうと、包括報酬型の居住系施設がそれぞれ整備されてきた中で、利用者の選択と政策の結果、サ高住が整備されてきたという現状が真実では。

木村 外付けサービスという観点でサ高住・住宅型を合わせると、すでに特養の入居者数に程近い60万戸超が供給されている現状。自立の人から要介護度の高い人までが住まう場としての社会インフラだ。ほかの居住系サービスでは事業継続が危ぶまれるほどの報酬改定の議論はなされない中、外付けサービスの部分のみ度指摘される。本人が選択しケアプランを作る外付けの住まうと、包括報酬型の居住系施設がそれぞれ整備されてきた中で、利用者の選択と政策の結果、サ高住が整備されてきたという現状が真実では。

木村 外付けサービスという観点でサ高住・住宅型を合わせると、すでに特養の入居者数に程近い60万戸超が供給されている現状。自立の人から要介護度の高い人までが住まう場としての社会インフラだ。ほかの居住系サービスでは事業継続が危ぶまれるほどの報酬改定の議論はなされない中、外付けサービスの部分のみ度指摘される。本人が選択しケアプランを作る外付けの住まうと、包括報酬型の居住系施設がそれぞれ整備されてきた中で、利用者の選択と政策の結果、サ高住が整備されてきたという現状が真実では。

木村 外付けサービスという観点でサ高住・住宅型を合わせると、すでに特養の入居者数に程近い60万戸超が供給されている現状。自立の人から要介護度の高い人までが住まう場としての社会インフラだ。ほかの居住系サービスでは事業継続が危ぶまれるほどの報酬改定の議論はなされない中、外付けサービスの部分のみ度指摘される。本人が選択しケアプランを作る外付けの住まうと、包括報酬型の居住系施設がそれぞれ整備されてきた中で、利用者の選択と政策の結果、サ高住が整備されてきたという現状が真実では。



菊井氏×木村氏リアル対談開催

高齢者住宅新聞社主催「住まい×介護×医療」展 in 東京2024(於:東京ビッグサイト)が登壇し、本誌が協賛する「サ高住×介護」対談を開催します。

対談者: 菊井 徹也(高住協会長) × 木村 祐介(高住協副会長)

対談日時: 5月22日(水) 13:00~14:30

対談会場: 東京ビッグサイト

対談内容: サ高住の現状、課題、今後の展望について、また、介護との連携、地域連携の重要性などについてお話しします。

対談料: 無料

申し込み: 本誌HPより



木村 外付けサービスという観点でサ高住・住宅型を合わせると、すでに特養の入居者数に程近い60万戸超が供給されている現状。自立の人から要介護度の高い人までが住まう場としての社会インフラだ。ほかの居住系サービスでは事業継続が危ぶまれるほどの報酬改定の議論はなされない中、外付けサービスの部分のみ度指摘される。本人が選択しケアプランを作る外付けの住まうと、包括報酬型の居住系施設がそれぞれ整備されてきた中で、利用者の選択と政策の結果、サ高住が整備されてきたという現状が真実では。

木村 外付けサービスという観点でサ高住・住宅型を合わせると、すでに特養の入居者数に程近い60万戸超が供給されている現状。自立の人から要介護度の高い人までが住まう場としての社会インフラだ。ほかの居住系サービスでは事業継続が危ぶまれるほどの報酬改定の議論はなされない中、外付けサービスの部分のみ度指摘される。本人が選択しケアプランを作る外付けの住まうと、包括報酬型の居住系施設がそれぞれ整備されてきた中で、利用者の選択と政策の結果、サ高住が整備されてきたという現状が真実では。

木村 外付けサービスという観点でサ高住・住宅型を合わせると、すでに特養の入居者数に程近い60万戸超が供給されている現状。自立の人から要介護度の高い人までが住まう場としての社会インフラだ。ほかの居住系サービスでは事業継続が危ぶまれるほどの報酬改定の議論はなされない中、外付けサービスの部分のみ度指摘される。本人が選択しケアプランを作る外付けの住まうと、包括報酬型の居住系施設がそれぞれ整備されてきた中で、利用者の選択と政策の結果、サ高住が整備されてきたという現状が真実では。

木村 外付けサービスという観点でサ高住・住宅型を合わせると、すでに特養の入居者数に程近い60万戸超が供給されている現状。自立の人から要介護度の高い人までが住まう場としての社会インフラだ。ほかの居住系サービスでは事業継続が危ぶまれるほどの報酬改定の議論はなされない中、外付けサービスの部分のみ度指摘される。本人が選択しケアプランを作る外付けの住まうと、包括報酬型の居住系施設がそれぞれ整備されてきた中で、利用者の選択と政策の結果、サ高住が整備されてきたという現状が真実では。

木村 外付けサービスという観点でサ高住・住宅型を合わせると、すでに特養の入居者数に程近い60万戸超が供給されている現状。自立の人から要介護度の高い人までが住まう場としての社会インフラだ。ほかの居住系サービスでは事業継続が危ぶまれるほどの報酬改定の議論はなされない中、外付けサービスの部分のみ度指摘される。本人が選択しケアプランを作る外付けの住まうと、包括報酬型の居住系施設がそれぞれ整備されてきた中で、利用者の選択と政策の結果、サ高住が整備されてきたという現状が真実では。